

ASIST 実践的ガイドライン作成委員会

平成17年度第一回会議 議事録

場所：東京駅八重洲北ロルビーホール

日時：平成17年9月11日、10:30~15:00

出席者：興梠征典（産業医大）、佐々木真理（岩手医大）、宇都宮英綱（福岡大）、岡田靖（九州医療センター）、酒向正春（初台リハビリ病院）、平井俊範（熊本大）、山田恵（京都府立医大）、野川茂（東京歯科大）、傳法倫久（慶応大）、橋川一雄（京都大）、古井英介（広南病院）、渡邊嘉之（大阪大）

1. メンバー紹介と本委員会の活動方針について（興梠）

- 実際の臨床で役立ち、また多施設研究でも参考になる具体的・実践的なガイドラインを作成することを基本方針とする。
- 当初の委員に加え、野川、傳法、橋川、古井先生にも参加して頂くこととなった。
- 外部評価委員として、寺山（岩手医大）、宝金（札幌医大）、畑澤（大阪大）各先生に了解済みである。
- 各委員の自己紹介を行った。

2. ASIST の活動についておよび本委員会に期待すること（佐々木）

- ASIST 活動の現状、実践的ガイドラインへの期待。

3. 脳血管障害画像診断ガイドライン（興梠）

- 日本放射線科専門医会・医会による脳血管障害画像診断ガイドライン「急性期脳梗塞」の説明

4. CTP/MRP の実践的ガイドラインの報告・内容紹介（渡辺）

- 日本放射線科専門医会・医会 CT/MR 灌流画像実践ガイドライン（案）の解説
- 実際に行った作業内容、治療ガイドラインとは手順がやや異なることを説明した
- このガイドラインを見本とすることを確認した。

5. 具体的な活動内容について（興梠）

班会議は CT、MRI の標準化であるが、急性期脳梗塞診断をより包括的に含むように、SPECT、Xe-CT、エコーの項目も設定することとした。実践的ガイドラインの各項目と担当者は以下のようにした

- 1) 単純 CT の撮影法、読影法：渡辺、柴田
- 2) MR (DWI,FLAIR,T2WI) の撮影法、読影法：山田、井田

- 3) MR,CT 灌流画像：CTP/MRP 実践的ガイドラインを引き継ぐ
- 4) MRA の撮像法、表示法、読影法：宇都宮
- 5) CTA の撮像法、表示法、読影法：平井
- 6) Xe-CT の撮像法、解析法、評価法：伝法、野川
- 7) SPECT の撮像法、解析法、評価法：橋川、酒向
- 8) 急性期脳梗塞診断における頸部エコーについて：古井、岡田
 - CT,MRI の項目以外にも、Xe-CT, SPECT, 頸部エコーについても項目をもうけ、ガイドラインを作成することとなった。
 - 今回は各モダリティの解説にとどめ、各検査の優先順位・脳梗塞の病態診断については今回のガイドラインでは言及しないこととした。
 - 今回のガイドライン目的は各検査の標準化とすることを確認した
 - 今回のガイドライン作成では実践的な内容となるので、手順などについてはエビデンスが乏しい領域が多いが、今回の CT/MR 灌流画像を参考に、専門家の意見を加えた内容とすることとした
 - 各担当者は作成協力者を 1～数名決め、委員長まで連絡することとした

6. 関連学会との連携（興梠）

- 日本脳卒中学会、日本医学放射線学会、日本磁気共鳴医学会、日本核医学会（脳神経核医学研究会）、日本脳神経超音波学会などとの連携をはかるべくロビー活動を行う。
- 日本医学放射線学会、日本磁気共鳴医学会とは連携済みである。
- その他については各委員が所属している学会に働きかけることとした。

7. 今後の予定（興梠）

- 年内に 2 回目の会議を行う予定。それまでに策定協力者、具体的方針を検討する。
- 来年度の夏前をめどに、各グループが今回の CT/MRP 実践的ガイドライン（案）の形態まで作成することが望まれる。その後、各グループの統一作業を図り、来年度内に公表を行いたい。
- 出版社からの出版を念頭に入れ策定に当たる（特発性正常圧水頭症診療ガイドラインを出版物のサンプルとして示した）。
- CTP/MRP 実践的ガイドラインの具体的な作成手順を渡辺がまとめ、ML に流すこととした。

文責：渡辺嘉之